昭和61年（1986年）8月9日　秋田魁新報

落ちこぼれ"返上だ！

◇…刈和野の「秋田カエル村」訪問…◇

仙台の小中生　自然の中で生活体験

「自然にカエル、生活をカエル」を合言葉にユニークな活動を続けているミニ独立国「秋田カエル村」（佐々木正光代表、仙北郡西仙北町刈和野）にきょう九日、宮城県仙台市の学校拒否児童小、中学生五十人余りが訪れ、自然の中での生活を体験する。

勉強についていけない子供や学校嫌いの子供たちに立ち直りの機会を与えようという民間組織、学校以外で学ぶ会（本部・東京中野）の東北支部が企画したもので、自分たちで食事を作り、大自然に溶け込むことを子供たちに自信を持たせるのが狙い。参加するのは小学四年から中学三年まで。

九日にバスでカエル村入りし、屋外村で焼肉焼に挑戦、西仙北町中央公民館に泊まり、自分たちで食事を作りながらの共同生活。十日は朝から全員でゲートボールを楽しんだ後、カエル村主催の「ジャリンコ・ピラミッド世界大会」に参加する。十一日はカエル村でイモノコ汁やキリタンポを作る体験学習を行い、午後に仙台に向かう予定だ。

開村以来最大の訪問団を迎えるカエル村はジャリンコ・ピラミッド大会とも重なって準備に追われてきた。佐々木代表は「本来ならカエル村に泊まってもらうのだが、二十人が限度。やむなく公民館にしてもらった。落ちこぼれといわれる子供たちでも、必ず長所を持っている。それを自然しかないカエル村での生活で発見してもらえれば」と話す。さらに「子供たちに刈和野という地名を知り、いつかまた来てもらえるようにしたい。それが秋田のPRにもなるはず」と、地域興し活動の一環であることを強調している。

週刊あきた 86.8/11

'86ジャリンコ・ピラミッド世界大会参加者募集!!

秋田カエル村（代表佐々木正光氏、西仙北町刈和野25、佐々木興業㈱内）では、来たる八月十日（日）行う、ジャリンコ・ピラミッド世界大会の参加者を募集している。

参加費は一人二、〇〇〇円（保険料、昼食代他含む）、場所は刈和野暁橋下流・雄物川原で、午前10時から午後3時迄、個人戦、ファミリー戦団体戦等行ない、個人戦では優勝者に賞金一〇万円、準優勝者にはカエル村特産みそ一年分、第三位には郷土古米うどん一セット、第五位には味どうらく一ケース、その他参加者全員に参加賞がある。

雨天決行で、詳しいお問い合わせは、秋田県西仙北町刈和野25、秋田カエル村事務局（電話〇一八七―五二―六二六）あるいはカエル村秋田店（秋田市大町二丁目七の二四、電話六二―九二八七）迄、皆様のふるってのご参加を切望しております。

PR

61.8/11 サキガケ

河原の砂利でピラミッド

炎天下、高さ競う

西仙北で世界大会

河原の石ころを積み上げ高さを競う「第一回ジャリンコピラミッド世界大会」が十日、仙北郡西仙北町刈和野の雄物川河川敷で行われた。日本を旅行中の外国人や仙台市の学習塾の生徒ら六十二人が炎天下で石積みに挑戦し、夏休みの一日を楽しんだ。

この大会は「自然にカエル、生活をカエル」を合言葉にユニークな活動をしている、同町のミニ独立国「秋田カエル村」（佐々木正光代表）が企画した。

午前十時四十分、合図とともに、参加者は思い思いに河原に散り、スコップだけを頼りに石を積み始めた。三百のスノー大会とほぼ同様、七人の外国人も参加し名実ともに「世界大会」。夏休みで日本を旅行中のデビッド・ジョーンズさん（三七）、ジェーン・ジョーンズさん（三五）兄妹と、いとこのポール・ジョーンズさん（二七）、それにマリオン・ネッカーさん（三〇）の四人は、米国人。台湾の楊紅玲さん（三〇）も、やはり日本旅行中。ステファン・トーソン・マンジャーラさん（六〇）とサムソン・ゲタッチョウさん（三〇）は、それぞれマラウイ共和国とエチオピアから一カ月前に本県に技術研修に来ている。

仙台市で登校拒否児などを積極的に受け入れているユニークな学習塾「北翔舎」（今北正史さん経営）の小中生四十七人も参加。

川面を渡る風がさわやかだったのは競技開始直後だけ。炎天下で参加者はもちろん、応援や見学の人も汗びっしょり。

スコップさばきは、やはり地元の人が一枚上で、着々と高さを稼いでいた。

しかし、百分間で最も高く積み上げたのは東京都西多摩郡檜原村のミニ独立国「コニコニコ共和国」大統領の高木満さん（二九）で、高さは一四八・五メートル。「賞金十万円は、国家事業費に充てる」と喜んでいた。

炎天下で汗をかきながら石積みをする参加者たち

砂利でピラミッド

「カエル村」でイベント

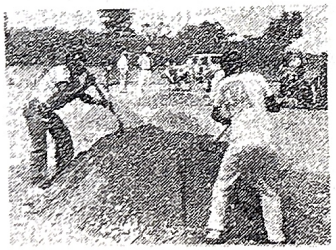
61.8/11 ヨミウリ

西仙北町の若者たちによるミニ独立国「秋田カエル村」が企画した「ジャリンコピラミッド世界大会」が十日、同町刈和野の雄物川河原でにぎやかに開かれた。

カエル村は「自然にカエル、生活をカエル」を合言葉にしたふるさとづくりの運動として、ことし五十八年秋に開村したこの三月には、雪を積み上げるスノーピラミッド大会を開いて評判となり、今回はイベント第二弾でシャベル一丁で、河原の砂利をどれだけ高く積み上げられるかを競うユニークな試み。

参加者は、若者や子供たちを中心に、一時間四十分たらず。最高の大統領が一対四八五を積み上げて優勝、優勝者は五万円を獲得。団体戦も、東京の会社員三人グループが優勝した。地元勢ではカエル村の有志が個人一位に輝いた。

十一月には、ピラミッドシリーズ第二弾として、雪を使って、その長さや、どこまでいくかを競う「なわなしでは」というイベントを予定。



国際色も豊かな"世界大会"

砂利でピラミッド

「カエル村」でイベント

61.8/11 ヨミウリ

西仙北町の若者たちによるミニ独立国「秋田カエル村」が企画した「ジャリンコピラミッド世界大会」が十日、同町刈和野の雄物川河原でにぎやかに開かれた。

カエル村は「自然にカエル、生活をカエル」を合言葉にしたふるさとづくりの運動として、ことし五十八年秋に開村したこの三月には、雪を積み上げるスノーピラミッド大会を開いて評判となり、今回はイベント第二弾でシャベル一丁で、河原の砂利をどれだけ高く積み上げられるかを競うユニークな試み。

参加者は、若者や子供たちを中心に、一時間四十分たらず。最高の大統領が一対四八五を積み上げて優勝、優勝者は五万円を獲得。団体戦も、東京の会社員三人グループが優勝した。地元勢ではカエル村の有志が個人一位に輝いた。

十一月には、ピラミッドシリーズ第二弾として、雪を使って、その長さや、どこまでいくかを競う「なわなしでは」というイベントを予定。

国際色も豊かな"世界大会"